

# 専 門 分 野 I

## 10単位 (300時間)

### <ねらい>

- 看護を体系的に捉え、看護の視点を理解するために、人間・健康・環境・看護の主要概念について学ぶ。
- 看護の対象を生活者として全人的に理解する。
- 人間としてよりよく生きる（生活する）ことの意味を認識し、安全・安楽・自立をふまえた基本技術を習得する。
- 状況を踏まえた看護技術の適応方法を学ぶ。
- 看護とは何か、看護職が果たす役割について考え、看護を探究する姿勢を培う。
- 看護における知識、技術、態度のなかでも特に態度や倫理を重視し、対象一人ひとりの生命の尊厳と人格を尊重する態度を養う。

### <構 成>

教育内容	科 目	単 位	時 間 数
基礎看護学	看護学概論	1	30
	看護の基本となる技術	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	生活を整える技術Ⅰ	1	30
	生活を整える技術Ⅱ	1	30
	生活を整える技術Ⅲ	1	30
	回復を促す技術Ⅰ	1	30
	回復を促す技術Ⅱ	1	30
	臨床看護総論Ⅰ	1	30
	臨床看護総論Ⅱ	1	30
合 計		10	300

# 基礎看護学

10 単位 (300 時間)

## <ねらい>

専門分野Ⅰは看護学すべての基盤となる。看護を体系的に捉え、看護の視点を理解するために、人間・健康・環境・看護の主要概念について学ぶ。看護とは何か、看護職が果たす役割について考える機会となる。対象を生活者として4側面(身体的・精神的・社会的・霊的)から全人的に理解する。

人間としてよりよく生きる(生活する)ことの意味を認識し、安全・安楽・自立をふまえた基本技術を習得する。看護を実践するための「看護の基本となる技術」「生活を整える技術」「回復を促す技術」そして、「臨床看護総論」では状況を踏まえた看護技術の適応方法を学ぶ。さらに、臨地実習を通して看護を探究する姿勢を培う。

専門職業人として、対象一人ひとりの生命の尊厳と人格を尊重する態度を養い、人間関係形成をはかる素地をつくる。

## <目的>

対象となる人間を理解し、看護を実践できる基礎能力を養う。

## <目標>

1. 看護の対象と役割について理解する。
2. 看護の基本となる技術を習得する。
3. 対象の生活を整える技術を習得する。
4. 対象の健康の回復を促す技術を習得する。
5. 看護診断を用いて対象へ個別的な看護を展開する方法を理解する。
6. 対象の「生命の尊厳」と「人格を尊重できる態度」を養い、責任遂行のための倫理的行動がとれる。
7. 自己の看護観を養う。

## <構成>

教育内容	科目	単位	時間数
基礎看護学	看護学概論	1	30
	看護の基本となる技術	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	生活を整える技術Ⅰ	1	30
	生活を整える技術Ⅱ	1	30
	生活を整える技術Ⅲ	1	30
	回復を促す技術Ⅰ	1	30
	回復を促す技術Ⅱ	1	30
	臨床看護総論Ⅰ	1	30
	臨床看護総論Ⅱ	1	30
合計		10	300



授業科目名	看護学概論			担当教員	土澤 るり		
分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病院の機能を理解したうえで、専門家としての責務や役職における責務を遂行した。チーム医療の中で、看護師として対象を理解し看護実践を行った。看護研究を通して看護の質の向上を考えた。	実務経験を活かし、看護とは何か、看護師の役割や責務について学生と討議する。経験を教材にして、中範囲理論を教授し、倫理的問題を提示して学生自身が主体的に学ぶ授業を行う。

授業のねらい・概要
1. 看護の基本的姿勢や考え方を明らかにする。 2. 看護師という職業を取り巻く環境条件や社会的特徴を考える。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	ナイチンゲール「看護覚え書き」からみた看護	講義	ポートフォリオ用ファイル
2	ケアリングにおける看護の姿勢	講義	
3	ヘンダーソンの基本的ニード セルフケア理論を活用した看護	講義	
4	看護倫理を取り巻く取り組み	講義	
5	医療安全と医療の質の保証	講義	
6	看護サービス提供の場 看護師のマナー	講義	
7	ナイチンゲール今昔ものがたり	演習	成果物 発表原稿
8	人口と関連要因からみた国民の健康状態 健康と生活・福祉・医療	講義	
9	地域包括ケアシステムにおける看護活動の場と看護の機能	講義/演習	成果物 発表原稿
10	看護活動の場と看護の機能(1)	施設見学	見学計画
11	看護活動の場と看護の機能(2)	演習	成果物 発表原稿
12	人間の成長発達の理解	講義	
13	人間の生活と役割	講義	
14	看護とは(1) 根拠と証拠を明確にしてポスターを作成する	演習	ポートフォリオ
15	看護とは(1)	演習	成果物 発表原稿

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門 I 看護学概論 医学書院、看護の基本となるもの、看護覚え書き、統合と実践 看護倫理

成績評価の方法
筆記試験70点、レポート・成果物30点

備考
学びの履歴(ポートフォリオ)を作成します。ファイルを準備し、資料やルーブリーフを綴じます。最初のページに各授業での学びや感想を記載して記録を残して提出します。最後に、それらをもとにポスターを作成します。

授業科目名	看護の基本となる技術			担当教員	竹本 雄也 大塚 ひとみ 小林恭子		
分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
様々な疾患、病期の患者に対する看護を経験。看護の基本技術をもとに、優先度をふまえて対象に関わり看護実践をしてきた経験がある。	実務経験を活かし、健康障害をもった患者と関わるために必要な技術、考え方について実践的な内容を含めた講義と技術指導を行っている。

授業のねらい・概要
1. 看護技術を実践する基本的姿勢や考え方を明らかにする。 2. 看護実践の基本となる技術を習得する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	看護技術の特徴と範囲	講義	
2	スタンダードプリコーション(1)	講義	
3	スタンダードプリコーション(2)	実技演習	援助計画シート
4	ボディメカニクスと看護援助	講義	
5	ヘルスアセスメントとは	講義	
6	ヘルスアセスメントに必要な技術(1)	講義/演習	
7	ヘルスアセスメントに必要な技術(2)	講義/演習	
8	ヘルスアセスメントに必要な技術(3)	講義/演習	
9	看護記録の記載と管理	講義	
10	問題解決過程とは	講義/演習	
11	問題解決過程の実際(1)	講義/演習	課題シート
12	問題解決過程の実際(2)	講義	
13	問題解決過程の実際(3)-1	講義	課題シート
14	問題解決過程の実際(3)-2	講義	課題シート
15	カンファレンスの意義・目的	講義/演習	課題シート

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門 I 基礎看護技術 I・II 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法
筆記試験90点 成果物10点

備考

授業科目名	フィジカルアセスメント			担当教員	細田 真衣 小林 恭子		
分野	基礎	教育内容	講義・演習	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
慢性期・急性期においてあらゆる年齢層・疾患に対して看護をしてきた。フィジカルアセスメントを通して患者の状態を把握し看護をしてきた経験がある。	実務経験を活かし、対象の生命徴候を捉え、どのように観察・アセスメントし看護につなげるのかを実践的な事例を通し講義と実技指導を行っている。

授業のねらい・概要
フィジカルアセスメントに必要な技術と考え方を明らかにする。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	バイタルサインの観察とアセスメント	講義/演習	
2	体温・脈拍・呼吸・酸素飽和度の測定	講義/実技演習	
3	血圧測定	講義/実技演習	援助計画シート
4	座位のバイタルサイン測定	講義/実技演習	援助計画シート
5	座位や臥床した対象へのバイタルサイン測定	講義/実技演習	援助計画シート
6	臥床した対象へのバイタルサイン測定(1)	講義/実技演習	援助計画シート
7	臥床した対象へのバイタルサイン測定(2)	講義/実技演習	援助計画シート
8	フィジカルイグザミネーション 呼吸器系	講義/実技演習	課題シート
9	対象へのフィジカルアセスメント 呼吸器系	実技演習	
10	フィジカルイグザミネーション 循環器系	講義/実技演習	課題シート
11	フィジカルイグザミネーション 腹部	講義/実技演習	課題シート
12	対象へのフィジカルアセスメント 腹部	実技演習	
13	フィジカルイグザミネーション(1) 筋・骨格系/神経系/感覚器	講義/演習	課題シート
14	フィジカルイグザミネーション(2) 筋・骨格系/神経系/感覚器	講義/演習	
15	フィジカルイグザミネーション(3) 筋・骨格系/神経系/感覚器	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書
系統別看護講座専門Ⅰ 基礎看護学Ⅰ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法
筆記試験70点、技術試験30点

備考
臥床した対象へのバイタルサイン測定(2)では技術チェックを行います。

授業科目名	生活を整える技術 I			担当教員	竹本 雄也 清水 沙苗		
分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟においてあらゆる年齢層の対象に対し看護を経験。その中で、対象に合わせた日常生活を整える看護を実践してきた。	実務経験を活かし、健康を促進するために必要な日常生活行動の援助技術について講義を行い、実践的な演習を通して援助技術を習得できるよう、指導を行っている。

授業のねらい・概要
1.対象の生活を整えるために必要な環境・及び活動・休息に関する技術を習得する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	人間にとっての活動・運動の意義	講義/演習	課題シート
2	体位の安楽	講義/演習	
3	基本的活動の援助(1)	講義/演習	
4	基本的活動の援助の実際(1)	実技演習	援助計画シート
5	基本的活動の援助(2)	講義/演習	
6	基本的活動の援助の実際(2)	実技演習	援助計画シート
7	人間にとっての睡眠・休息の意義	講義	
8	睡眠・覚醒の援助	講義/演習	
9	人間と環境	講義/演習	
10	病床環境	講義/実技演習	
11	環境整備技術(1)	実技演習	援助計画シート
12	環境整備技術(2)	実技演習	
13	環境整備技術(3)	実技演習	
14	臥床患者の環境整備	実技演習	援助計画シート
15	環境調整技術の意義	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門 I 基礎看護技術 II 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法
筆記試験100点

備考
環境整備技術(3)ではベッドメイキングの技術チェックを行います。

授業科目名	生活を整える技術Ⅱ			担当教員	佐々木 瞳 渋木里子		
分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
食事、排泄などの生活援助を実践した病棟経験がある。小児から高齢者、終末期の患者まで、様々な疾患を抱えた患者一人一人に合わせた手法を用いて看護を実践してきた。	実務経験を活かして実践的な事例を含めた講義と技術指導を行い、対象者の日常生活における未充足への基本的援助技術を習得できるようにする。

授業のねらい・概要
1. 対象の生活を整えるために必要な食事及び排泄に関する技術を習得する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	食事の意義	講義	
2	栄養のアセスメント	講義	
3	食事摂取の援助の実際(1)	講義	
4	食事摂取の援助の実際(2)	講義	
5	非経口的栄養摂取の方法	講義	
6	口腔ケアの実際	講義	
7	食摂取の介助	実技演習	援助計画シート
8	口腔ケアの実際	実技演習	援助計画シート
9	排泄の意義	講義	
10	排尿のメカニズム、アセスメント	講義	
11	排便のメカニズム、アセスメント	講義	
12	自然排尿および自然排便の援助の方法(トイレ、ポータブルトイレ)	講義/演習	
13	自然排尿および自然排便の援助の方法(床上排泄)	講義/演習	
14	床上排泄の援助の実際(オムツ交換、尿器、便器)	実技演習	援助計画シート
15	床上排泄の援助の実際(オムツ交換、尿器、便器)	実技演習	援助計画シート

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法
筆記試験100点

備考



授業科目名	生活を整える技術Ⅲ			担当教員	大塚 ひとみ 八反田 希望		
分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟においてあらゆる年齢層の対象に対し看護を経験。その中で対象に合わせた、日常生活を整える看護を実践してきた。	実務経験を活かし、健康を促進するために必要な清潔の援助技術について講義を行い、実践的な演習を通して援助技術を習得できるよう、指導を行っている。

授業のねらい・概要
1. 対象の生活を整えるために必要な清潔及び衣生活に関する技術を習得する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	衣生活への援助	講義/実技演習	課題シート
2	衣生活への援助の実際 セパレート寝衣/和式寝衣	実技演習	
3	清潔の援助の効果と方法選択の視点	講義	課題シート
4	基礎的技術(1)	講義/実技演習	課題シート
5	基礎的技術(2)	演習	
6	全身清拭の一連の実施	講義/実技演習	課題シート
7	事例に応じた援助方法の検討	演習	
8	事例に応じた援助の実際(1)	講義/実技演習	課題シート
9	事例に応じた援助の実際(2)	演習	
10	床上での部分浴の実際	講義	
11	床上での洗髪の実際(1)	実技演習	援助計画シート
12	床上での洗髪の実際(2)	実技演習	
13	患者のADLに適した足浴・手浴の実際	実技演習	援助計画シート
14	床上での陰部洗浄の実際(1)	実技演習	援助計画シート
15	床上での陰部洗浄の実際(2)	実技演習	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法
筆記試験70点、技術試験30点

備考

授業科目名	回復を促す技術 I			担当教員	竹本 雄也 洪木里子 細田真衣		
分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科系病棟において、周手術期から回復期、終末期まで様々な段階のあらゆる年齢層を対象に看護を経験。検査・治療を受ける対象への看護を実践してきた。	実務経験を活かし、検査・治療を受ける対象に必要な看護について、講義と演習を展開し指導を行っている。

授業のねらい・概要
対象の回復を促すために必要な治療時の基本的技術を習得する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	感染防止の技術(1)	講義	
2	感染防止の技術(2)	実技演習	援助計画シート
3	滅菌操作	講義	
4	創傷管理技術(1)	講義	
5	無菌操作による創処置の実際	実技演習	援助計画シート
6	創傷管理技術(2)	講義	
7	包帯法の実際	実技演習	援助計画シート
8	臨床検査の種類と目的	講義	
9	検体検査・生体検査の基礎知識(1) 一般検査	講義	
10	検体検査・生体検査の基礎知識(2) 生理機能検査	実技演習	援助計画シート
11	検体検査・生体検査の基礎知識(3) 画像検査	講義	
12	検体検査・生体検査の基礎知識(4) 診察/検査/処置時の介助	講義	
13	検体検査・生体検査の基礎知識(5) 血液検査	講義	
14	静脈血採血(1)	実技演習	援助計画シート
15	静脈血採血(2)	実技演習	援助計画シート

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門 I 基礎看護技術 II 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床検査 医学書院

成績評価の方法
筆記試験100点

備考

授業科目名	回復を促す技術Ⅱ			担当教員	大塚 ひとみ 佐々木 瞳		
分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
対象の年齢や疾患問わず、診療の補助を経験してきた。基本に基づき適切な方法で看護を実践してきた。	実務経験を活かし、実践的な事例を含めた講義と技術指導を行い、基本に沿った援助技術を習得できるようにする。

授業のねらい・概要
1. 対象の回復を促すために必要な治療時の基本的技術を習得する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	薬物療法における看護師の役割	講義	
2	経口与薬とその他の与薬法(1)	講義/演習□	援助計画シート
3	経口与薬とその他の与薬法(2)	実技演習	援助計画シート
4	注射器と薬剤の取り扱い/薬剤の吸い上げ	講義/演習	
5	皮下注射/皮内注射/筋肉内注射	実技演習	援助計画シート
6	静脈注射/点滴静脈内注射(1)	講義/実技演習	課題シート
7	静脈注射/点滴静脈内注射(2)	実技演習	
8	輸液時の看護と実際	実技演習	課題シート
9	輸血の基礎知識と看護	講義/演習	
10	排尿障害のある人の看護(1)	講義	
11	排尿障害のある人の看護(2)	講義/演習	課題シート
12	導尿	実技演習	課題シート
13	排便障害のある人の看護(1)	講義	課題シート
14	排便障害のある人の看護(2)	講義/演習	課題シート
15	浣腸	実技演習	課題シート

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院

成績評価の方法
筆記試験100点

備考

授業科目名	臨床看護総論 I			担当教員	細田 真衣 竹本 雄也 小林 恭子		
分野	専門分野 I	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期～慢性期病棟においてさまざまな疾患やあらゆる年齢層の患者に対する看護を経験。アセスメントから主要症状に対する早期発見と、患者のニーズを捉えた看護を実践してきた。	実務経験を活かし、さまざまな機能障害をもった患者のアセスメントの視点とその看護について、臨床での事例を用い実践的な内容を含めた講義と技術指導を行っている。

授業のねらい・概要
1. 対象の健康水準に応じた看護を理解する。 2. 主要症状を示す対象の看護を理解する。 3. 看護的な視点で対象を捉え援助を実践する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	健康状態の経過に基づく看護 各期における看護(急性期・慢性期・リハビリテーション期・終末期)	講義	
2	体温調節機能に異常をきたした人への援助	講義/演習	
3	電法を用いた症状緩和の援助	実技演習	援助計画シート
4	浮腫がある人への症状緩和の援助	講義/演習	
5	安楽に関連する症状を示す対象者への看護 痛み・吐き気のメカニズム	講義/演習	
6	脱水症状を示す対象者の看護	講義/演習	
7	呼吸困難にある人への看護(1)	講義/演習	課題シート
8	呼吸困難にある人への看護(2)	講義/演習	
9	酸素療法中の人への移動/痰の排出を促す援助の実際	実技演習	援助計画シート
10	循環障害のある人への看護	講義/演習	
11	アセスメントに生かす臨床推論技術	講義	
12	症状別アセスメント(1)	講義/演習	
13	症状別アセスメントにおける臨床推論(1)	講義/演習	
14	症状別アセスメント(2)	講義/演習	
15	症状別アセスメントにおける臨床推論(2)	講義/演習□	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門 I 臨床看護総論 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院 看護につながる形態機能学

成績評価の方法
筆記試験100点

備考

授業科目名	臨床看護総論Ⅱ			担当教員	八反田 希望 清水沙苗		
分野	専門分野Ⅰ	教育内容	基礎看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科・外科病棟において学童期～老年期にあたる様々な対象の看護を経験。その中で対象に合った看護展開を行い実践してきた。	実務経験を活かし、対象の健康障害をアセスメントし、実施・評価する過程について実践的な事例を含めた講義をおこなっている。

授業のねらい・概要
1.看護における問題解決過程と意思決定過程を理解する。 2.看護的な視点で対象を捉え援助を考える。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	問題解決とは	講義	
2	情報収集の方法	講義	
3	情報収集の方法の視点(1)	講義	
4	情報収集の方法の視点(2)	講義	課題シート
5	情報収集の方法の視点(3)	講義/演習	課題シート
6	情報収集の実際	実技演習	課題シート
7	情報の整理/アセスメント	講義/演習	
8	分類表	講義/演習	課題シート
9	仮診断リスト 看護診断の確定	講義/演習	課題シート
10	分類表/仮診断リスト/看護診断の確定	講義/演習	課題シート
11	看護計画立案	講義/演習	課題シート
12	1日の実習記録の記載	講義/演習	課題シート
13	看護の実施	実技演習	課題シート
14	評価・修正	講義/演習	課題シート
15	看護過程のまとめ	講義	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院、NANDA－Ⅰ看護診断2018-2020

成績評価の方法
筆記試験 60点、課題 40点

備考